

## 台風 21 号による関西国際空港閉鎖に伴う影響について

## 1 観 光 等 (訪日外国人旅客数)

- ・ 9 月の訪日外国人客が 5 年 8 ヶ月ぶりに前年同月比マイナスとなった。同月に関空から入国したインバウンドも 31 万 200 人で昨年同月の 57 万 1020 人から 46%減少とほぼ半減し、好調だった関西経済にも一定の影響が出たが、3 連休だった 9 月 22 日～24 日は 1 日平均 1 万 9 千人と 4.5%減の水準まで回復、10 月 9 日以降も前年比 100～120%で推移しており、被災前の水準に戻りつつあることから「影響は限定的」との見方が強い。(9 月 27 日・毎日新聞、10 月 16 日・産経ニュース等)

## 2 物 流

- ・ 関空から輸出される部品・部材の多くは、技術的に日本でしか生産されない高付加価値なものであり、(海外における)既存のサプライチェーンに大きな影響を与え、現地工場にとって懸念材料となる可能性が高い。(9 月 7 日・一財アジア太平洋研究所)
- ・ 日本の食品に対する高評価、和食ブーム等を背景に、関西から農林水産物の輸出が困難になれば、海外での現地販売拠点や消費者ニーズに応えられなくなる可能性が高い。(9 月 7 日・一財アジア太平洋研究所)
- ・ 物流の一大拠点である関西国際空港が閉鎖され、企業の輸出入に大きな影響が出た。部品メーカーは製品を他空港に運んで、海外に出荷するなど対応に迫られた。関空の閉鎖が、企業の生産活動に停滞を招くという現実を浮き彫りにした。(9 月 5 日・産経ニュース)
- ・ 貨物便は復旧に時間がかかっている。電子部品や医薬品の輸出入といった企業のサプライチェーン機能は戻っていない。9 月 21 日に航空貨物便を運行する会社は 7 社 (41%) にとどまっている。(9 月 21 日日経)
- ・ 関西国際空港における貨物取扱量について、9 月の総取扱量は前年同月比 60.3%減の 2 万 9474 トンで、26 か月ぶりのマイナスとなった (10 月 4 日 大阪税関報道発表資料から)

## 【企業の対応例】

- ・ パナソニックやロームなどの部品メーカーでは、成田、羽田、中部、福岡などの空港に振り替えて輸出。輸送コストの増加が課題になっている。振替えが長期に及ぶ可能性も考慮している。(神戸新聞、産経ニュースから)
- ・ 医薬品では、関空の専用の定温倉庫が 10 月 1 日から稼働し、同 3 日に荷受けを再開。小野薬品工業は、一度他空港へ振り替えたがん免疫治療薬「オプジーボ」の輸出を今月中に関空へ戻すと決めた。(10 月 4 日・産経ニュース)

## 3 関西経済全般

- ・ 阪急百貨店梅田店では、関空の被災から 1 週間程度は免税品売上額が前年比半減したが、9 月下旬は前年を上回るまで回復。
- ・ 高島屋大阪店では、9 月の免税品売上高は約 2 割減少したが、10 月は来客数が戻り順調。
- ・ りそな総合研究所は、インバウンド減による関西消費額のへの影響は「当初の見立てよりも少ない 300 億円程度」と分析。「関空がスピード復旧したことで思ったよりインバウンドの戻りが早い印象。10 月は再び前年同月比プラスとなることも期待できる」(10 月 16 日・産経ニュース)
- ・ 日本総合研究所は、関空閉鎖は 1 日 30 億円の経済損失を与えると試算 (9 月 21 日・日経)
- ・ 「足元で台風 21 号の影響は若干見られるが、緩やかに拡大していることに変わりはない」(日銀黒田総裁) (9 月 26 日・日経)